

語

国

注意事項

- [一] (現代文) は必須。全員が解答せよ。
- [二] (現代文・三] (古文) は選択。どちらか一題を選び解答せよ。
- 必須一題 [一]、選択一題 [二] または [三]、計二題の解答となる。

問題を正しく選び解答すること。

国語

[一]

(全員が解答)

次の文章を読み、後の問に答えよ。

「著作権の関係上、文章は掲載しておりません。」

「著作権の関係上、文章は掲載しておりません。」

(大竹昭子「写真のなぞ、写真家のふしぎ」一部改変による)

注 E・マイブリッジ 十九世紀のイギリス出身の写真家。

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字で記せ。

問二 空欄(a)(b)を補う語句として最も適当なものを、次の選択肢の中からそれぞれ一つ選び、記号で記せ。

ア すなわち イ あたかも ウ つまり エ また オ いっぽう

カ ことさら キ ところで ク とりわけ

問三 問題文に次の文を補入する場合、本文中の(1)～(5)のどこに入れるのが最も適当か。その番号を記せ。

・つねにそこにはあともどりできない時間が挟まっているのだ。

問四 傍線部X「能天気な」とあるが、この言葉の元来の意味は何か。簡潔に記せ。

問五 傍線部A「能動性をもった視覚」とあるが、具体的にどのような性質の「視覚」か。問題文中の語句を用いて四十字以

内で説明せよ(ただし句読点を含む)。

問六 傍線部B「生きてきた時間がいやおうなく重なってきてしまう」とあるが、具体的にどういうことか。問題文全体を踏

まえて六十字以内で説明せよ（ただし句読点を含む）。

[二]
（選択問題） 次の文章を読み、後の問に答えよ。

「著作権の関係上、文章は掲載しておりません。」

「著作権の関係上、文章は掲載しておりません。」

（小峯和明「中世日本の予言書―（未来記）を読む」による）

国語

国語

問一 傍線部 a～e のカタカナを漢字で記せ。

問二 空欄 (X) (Y) (Z) を補う語句として最も適当なものを次の選択肢の中からそれぞれ一つ選び、記号で記せ。

ア あるいは イ しかし ウ つまり エ そして

問三 空欄 (A) ～ (G) には、「事前」もしくは「事後」という語が入る。「事前」が入る箇所をすべて選び、記号で記せ。

問四 本文中には次の一文が脱落している。当てはめるのに最も適切な箇所を本文全体から探し、その箇所の直前の五字を解答欄に記せ（ただし句読点を含む）。

・まさに過去を喚起することも予言なのである。

問五 傍線部①「予言を未来に向かってより確かなものとするために、予言が記録されるようになる」とあるが、予言はなぜ記録されると未来に向かってより確かなものになるのか、問題文全体を踏まえて三十字以内で説明せよ（ただし句読点を含む）。

問六 傍線部②「勅撰」とあるが、この言葉の意味を簡潔に説明せよ。

問七 傍線部③「童謡」は未来の予言書として作用している」とあるが、「童謡」が未来の予言書として作用するとはどういうことか。問題文全体を踏まえて六十五字以内で説明せよ（ただし句読点を含む）。

【三】（選択問題） 次の文章を読み、後の問に答えよ。

今は昔、^①大隅の守の、国の政したため行ふあいだに、郡の司のしどけなきことどもありければ、「召しにやりて戒めむ」と言ひて、人遣りつ。さきどきかくしどけなき事ある折は、罪にまかせて重く軽く戒むることあり。それ一度にあらず、たびたび

重なりたることなれば、これも戒めむとて召すなりけり。
さて、「ここに召して候」と申しければ、さきさきするやうに、そへ伏せて、尻頭にのぼるべき人、咎しとを切り設けて、打つべき人など設けてあるに、人二人して引き張りて、率て来たるを見れば、頭は黒き髪もまじらず、いみじう白う、見るに打たせむ事のいとほしうおぼえければ、^②「何事に事をつけて、これを許さむ」と思ふに、^③事つくべき事もなし。過ちどもを片端より問ふに、ただ老いをのみ豪家にて答へをり。^④「いかにしてこれ許してむ」と思ひて、「おのれはいみじき盗人かな。さはありとも、歌は詠みてむや」と言ふに、「はかばかしうはあらずとも、仕うまつりてむ」と答ふ。「いで、さは詠め」と言へば、程もなく、わななかし^⑤てうち出だす。

A 年を経て頭に雪は積もれどもしと見るにぞ身は冷えにける

と詠みたりければ、^⑥守、いみじう感じ、あはれがりて、許してやりてけり。

(『古本説話集』による)

注 しどけなきこと だらしないこと。租税貢納等の怠慢のこと。

尻頭にのぼるべき人 罪人の頭や尻の方に乗って押さえつける役。

咎 「しと」と。細枝で作った刑罰の道具の鞭。背や臀部を打つ。

豪家にて 口実にして。

国語

国語

問一 傍線部①は現在の何県にあたるか。最も適しているものを次の選択肢から選び、その記号を記せ。

ア 新潟県 イ 富山県 ウ 滋賀県 エ 山形県 オ 鹿児島県

問二 傍線部②と思つた理由を具体的に説明せよ。

問三 傍線部③・④の解釈として最も適しているものをそれぞれ次の選択肢から選び、その記号を記せ。

③

ア たてつく事はできない

イ 仕事に就くことはできない

ウ 罰する理由が見当たらない

エ 口実にできるような事もない

オ 事件にするようなことではない

④

ア どうやって許可をだそうか

イ なんとかして許してやろう

ウ きつとどうにかして許すだろう

エ なんとか許可を出すにちがいない

オ どうして許すことができるか、いや、できない

問四 傍線部⑤の主語として最も適しているものを次の選択肢から選び、その記号を記せ。

ア 大隅の守 イ 郡の司 ウ 尻頭にのぼるべき人 エ 打つべき人 オ 盗人

問五 Aの和歌の説明として適しているものを次の選択肢から二つ選び、その記号を記せ。

ア「しも」が掛詞で、「下」と「霜」が掛けられている。

イ「しも」が掛詞で、「死も」と「霜」が掛けられている。

ウ「しもと」が掛詞で、「部」と「答」が掛けられている。

エ「しもと」が掛詞で、「霜と」と「答」が掛けられている。

オ「年」「答」が「頭」の縁語である。

カ「死」「冷ゆ」が「身」の縁語である。

キ「積もる」「霜」が「雪」の縁語である。

ク「頭」「積もる」が「年」の縁語である。

問六 傍線部⑥となつたのはなぜか、具体的に説明せよ。

問七 『古本説話集』と同じジャンルの作品を次の選択肢から選び、その記号を記せ。

ア『古今和歌集』 イ『竹取物語』 ウ『伊勢物語』 エ『更級日記』

オ『今物語』